

発行日:2026年3月



SVPインサイトVol.60

# EV/PHEV充電器

～世界市場の現状と将来展望～

本レポートは、2024年11月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。  
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。



## I.市場の定義

本レポートでは、電気自動車(EVまたはBEV)およびプラグインハイブリッド車(PHEV)向けの専用充電ケーブルと制御回路を備えた充電器の世界市場を調査している。調査対象には、家庭向けのACアウトレット製品(屋外などに設置するコンセントのみのタイプ)は、対象外としたが、スタンド型・壁掛け型、普通充電・急速充電、さらに公共用・家庭用の各用途を網羅。Type1、Type2、GB/T、CHAdeMO、CCS、NACSなど主要規格を含めて分析している。市場規模およびマーケットシェアはメーカー出荷台数と出荷金額を基準に算出し、無償提供分もコスト換算で推計している。

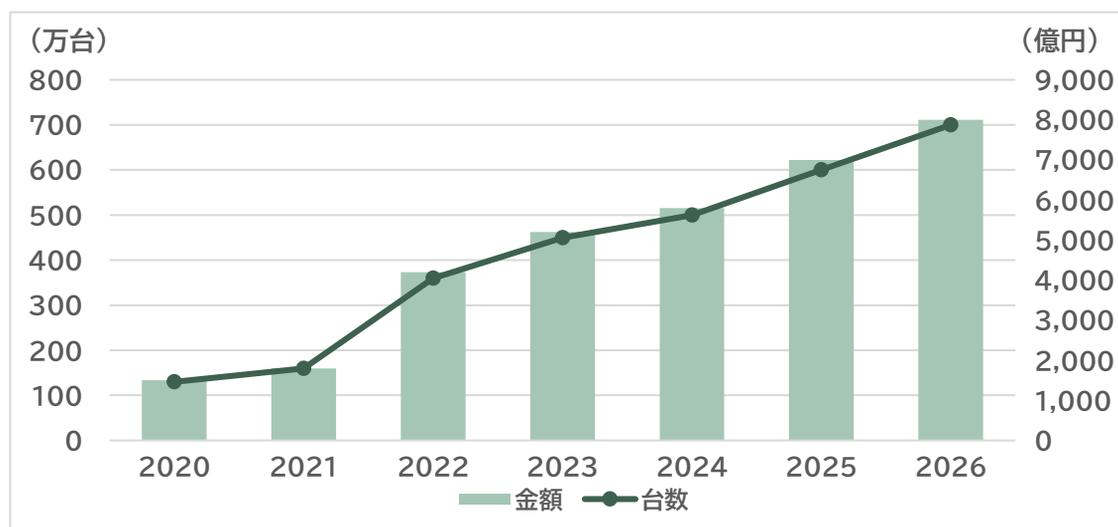
## II.市場動向

EV/PHEV充電器市場は、世界のEVの過半を占める中国の動向に大きく左右される。中国では補助金を背景に公共充電設備の整備が進み、2022~23年には家庭用充電器も年間200万台規模で増加し、市場拡大を牽引した。この際にEVメーカーによる家庭用充電器の無償提供も普及を後押ししている。一方、欧米では補助金の打ち切りや高額所得者層の需要一巡により新車販売が減速し、2024年は家庭用需要の伸び悩みが懸念される。ただし公共インフラ整備は各国で進展しており、中国以外でも中長期的な需要拡大が見込まれる。日本でも政府主導で公共充電設備の増設が進み、市場は緩やかながら拡大傾向にある。

## III.市場規模・予測

EV/PHEV充電器の世界市場は2023年に約450万台、約5,200億円規模と推定される。家庭用が約70%、公共用が約30%を占め、中国が数量ベースで約70%弱と最大市場である。欧州約16%、北米約11%が続く。日本は1%未満にとどまるが、公共用の充電器は約3万台で、2030年に向け増設方針が示されている。中国を中心に家庭用の普及と公共インフラ整備が進み、市場は拡大基調を維持し、2026年には約700万台、約8,000億円規模に達すると予測する。

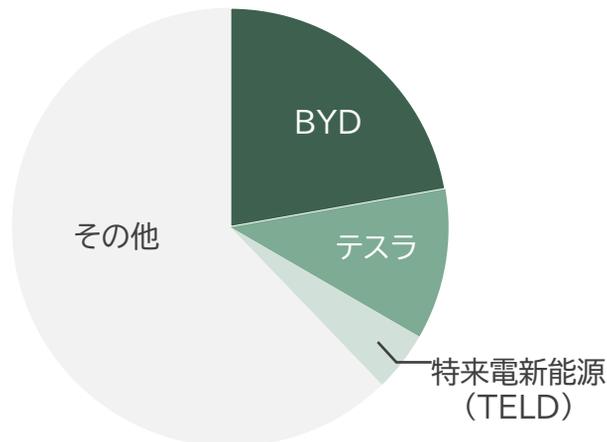
EV/PHEV充電器 市場規模推移(世界市場)



## IV.マーケットシェア

中国、欧米のEVメーカー各社が、OEM調達を含めて自社ブランドで充電器を展開しており、EVの二大メーカーであるBYD、テスラが上位を占めると推定される。特に、中国市場での家庭用充電器の供給で、BYDのシェアが高い。EVメーカー以外に上位シェアを占める企業として、中国の公共用充電ステーションの構築・運営を手掛ける大手企業で、充電設備の大手メーカーである特来电新能源(TELD)が挙げられる。

EV/PHEV充電器 マーケットシェア(2023年・数量ベース)



## V.参入企業の動向

BYDは新車販売時に自社ブランドのボックスタイプ普通充電器を提供しており、多くのモデルで無償提供を行うことで家庭用充電器市場で高いシェアを占める。中国では公共充電ステーション整備も主導するなど、公共領域でも強い存在感を示す。グループ会社の弗迪動力も普通充電器を外販し収益多角化を図る。テスラは普通・急速充電器の生産からスタンド運営まで手掛けている。急速充電器では独自規格の「Supercharger」を米国中心に設置している。2023年に同規格が米国の国内標準として承認された。特来电新能源(TELD)は中国最大級の運営企業で急速・普通型を自社生産し設置運営、電力会社・石油会社・EVメーカーに販売している。その他にはフォルクスワーゲン、ゼネラルモーターズ、メルセデス・ベンツなどが家庭用充電器を展開し、中国では星星充電(StarCharge)も有力である。ABB、シーメンスなど欧州勢も主要企業であり、日本企業も多数参入している。

## VI.業界構造

EV/PHEV充電器の参入メーカーは、主にEVメーカー、電機メーカー、公共充電スタンド運営企業に大別される。EVメーカーはOEMを含め自社ブランドの家庭用充電器を展開しており、BYDとテスラは自社生産を行う。テスラは急速充電器を活用した公共スタンド運営も事業化している。電機メーカーはEVメーカーや運営企業向けに充電器を供給する。主な運営事業者として、中国の特来电新能源、星星充電、国家电网、米国のクーロン・テクノロジーズ、欧州の主要自動車メーカーによる合弁会社アイオニティ、日本のe-Mobility Power、ENEOS、ENECHANGEなどが挙げられる。なお、特来电新能源と星星充電は設備製造も手掛ける有力企業である。

1分でわかる

# SVP会員制 ビジネス情報サービス



# 1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

## 変化①

### 社会環境の変化



- ✓戦争の勃発
- ✓新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の流行
- ✓気候変動

## 変化②

### ビジネス環境の変化



- ✓テクノロジーの進化
- ✓グローバル化
- ✓新世代の台頭
- ✓破壊的企業の躍進



**組織的な課題に直面**

## 2.企業が解決すべきリサーチ課題

社会・ビジネス環境の変化の加速により、  
これまで以上に、迅速かつ的確なリサーチ環境の整備が企業に求められている。

1

幅広いビジネス情報  
への迅速なアクセス

幅広い事象に関して、  
スピーディーにアクセスできる  
環境の整備



2

質の高い情報の獲得  
(重要領域での質の担保)

信頼できる上質な  
ビジネス情報を収集できる  
環境の構築



3

成長が期待される  
新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての  
市場や企業動向を認識する  
ケイパビリティの有無



### 3.AI活用が進む中で、顕在化してきた情報収集の課題

企業は、リサーチ業務でのAI活用のメリット・デメリットを認識すべき。

#### AI活用により可能になったこと

-  学習データを対象とした情報検索の高度化
-  表作成、リスト化等の単純作業の自動化
-  海外・多言語情報へのアクセス
-  コスト削減とリソース最適化
-  要約・比較・仮説抽出の効率化
-  分析スピードの向上

業務効率の向上

#### AI活用により見えてきた課題

-  プロンプト作成・設計の難しさ
-  有料レポートや一次情報に未対応
-  ハルシネーションの問題
-  情報の取り扱い・機密性への配慮
-  ファクトチェックの必要性
-  調査・生成AIに精通した人材の不足

AIはリサーチ業務効率を高めるが、  
意思決定を支えるには不十分。

## 4.SVP会員サービスの提供価値



「WebにもAIにも載っていない、  
“意思決定のためのビジネスインサイト”を。」

### SVPサービスのポジショニング

AI時代における「ヒト×AI×独自情報源による一段上のリサーチ・ソリューション」を  
ベストコストでご提供

### 提供サービス

多様な情報源と調査手法を駆使した、会員制マーケットリサーチ・サービス

- リサーチBPOからカスタム調査、オリジナルの市場レポート、コンサルティングまで、  
ワンストップでご提供
- Webと生成AI、商用データベース、独自のライブラリーを対象としたデスクリサーチ、  
ヒアリングとアンケートによるカスタム調査など、幅広い情報源と調査手法を活用

### バリュープロポジション(提供価値)

- 市場調査とAIに精通したプロのリサーチャーによる調査実行
- Webと生成AIだけでは入手できない、意思決定に求められるビジネス情報を  
ワンストップでご提供
- リサーチBPOの活用により、顧客の社内人材が本業に集中できる環境の整備を支援

## 5. サービス一覧

SVP会員サービスは、年間契約で、リサーチBPOサービスとカスタムリサーチ、オリジナル調査レポートを提供しています。

1

### クイックリサーチ(リサーチBPOサービス)

活用シーン 短時間で全体像を掴みたい

- ・日々のリサーチ業務をアウトソースし、必要な情報を素早く整理・把握したい

特徴

- ・幅広いビジネス公開情報を横断的に活用
- ・AIとリサーチャーを活用し、目的に応じて調査・整理
- ・そのまま使える形にまとめてレポート提供



最短2日営業日以内

2

### プロジェクトリサーチ(カスタムリサーチ)

活用シーン 意思決定に耐える根拠が欲しい

- ・公開情報だけでは把握できない市場・業界・競合他社・顧客の実態を知りたい
- ・意思決定に活用できる、信頼性の高い情報を得たい

特徴

- ・調査設計から行うカスタムリサーチ
- ・一次情報の収集・検証により、判断に耐える根拠を構築
- ・調査から分析、コンサルティングまで、意思決定を支援



✓ヒアリング調査  
✓アンケート調査

3

### SVPナレッジ(オリジナル調査コンテンツ)

活用シーン 将来を見据えて視野を広げたい

- ・事業に影響する変化を把握したい
- ・メガトレンドや注目市場、最新技術の動向を継続的に知りたい

特徴

- ・注目市場の動向をレポートに整理
- ・事業検討に使える視点をコンパクトに提供
- ・信頼できるビジネス情報の収集を効率化



注目市場分析 月2回  
メールマガジン 月1回

## 6.導入実績



年間調査実施数  
約15,000件



商用DBシステム利用  
20システム



国内外企業財務情報  
4,000万社以上



SVPネットワーク  
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績  
**導入企業600社以上**





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

**クイックリサーチ**

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

**プロジェクトリサーチ**

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

**資料ダウンロード**

[こちらをクリック](#)



**お問い合わせ**

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît  
**SVP JAPAN**  
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

**TEL:03-3249-0771**

